

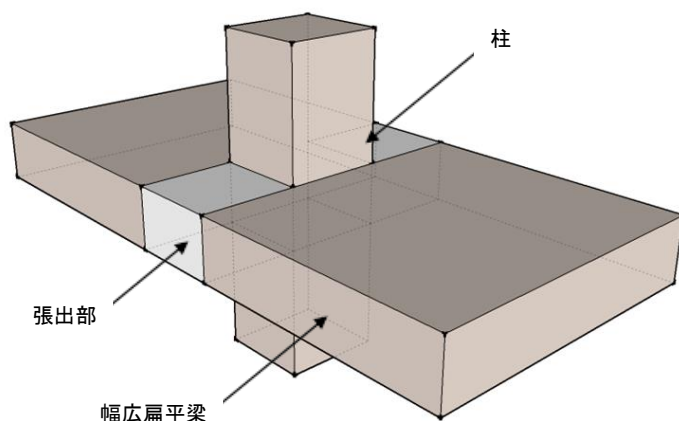
【技術の名称】 長谷工フラットビーム構法（HCFB構法） －幅広扁平梁構法－（改定 1）	性能証明番号：GBRC 性能証明 第 13-14 号 改 1 性能証明発効日：2016 年 4 月 21 日
	【取得者】 株式会社長谷工コーポレーション

【技術の概要】

本技術は鉄筋コンクリート造建築物において、幅広の扁平梁（以下、幅広扁平梁と称する）と柱からなる架構を構築するものである。本架構の幅広扁平梁は柱幅を超える梁幅を有し、梁主筋の一部は柱外部に配筋される。接合部において柱から張り出す部分（以下、張出部と称する）には、所定の補強筋を配筋することにより、柱側面のねじりモーメントとして、梁から柱へと曲げモーメントを伝達させることを意図している。

【改定の内容】

- 新規：GBRC 性能証明 第 13-14 号（2013 年 10 月 8 日）
改定 1：GBRC 性能証明 第 13-14 号 改 1（2016 年 4 月 21 日）
- ・構造規定の変更（拘束筋の必要補強量、拘束筋・コ形補強筋の形状）
 - ・張出部のねじりモーメントの設計規定の変更（コンクリート耐力のみで負担）



幅広扁平梁架構の概念図

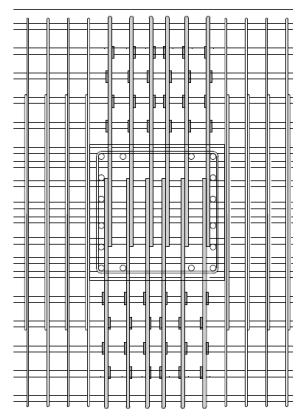
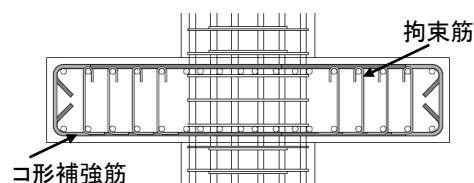
【技術開発の趣旨】

本構法に用いる幅広扁平梁は通常よりも梁せいが小さいため、階高を変えることなく梁下の有効開口寸法を大きく確保することが可能である。また梁幅を柱幅よりも大きくすることで、梁せいを小さくしながら、必要な剛性および耐力を確保することが可能である。これらにより、設計で期待する構造性能を確保したうえで、開放的な室内空間を実現することを意図して開発されている。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「長谷工フラットビーム構法 設計施工指針」に従って設計・施工された幅広扁平梁および幅広扁平梁柱接合部は、同指針で保証すべき長期荷重時および短期荷重時の要求性能を満足するとともに、同指針で定める終局耐力ならびに変形性能を有する。



張出部の配筋例

【本技術の問合せ先】

株式会社長谷工コーポレーション 技術研究所 担当者：平田延明 E-mail：Nobuaki_Hirata@haseko.co.jp
〒343-0822 埼玉県越谷市西方 2968 TEL：048-988-7717 FAX：048-988-7727